

# 南の風 350

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

前号の続きです。

## ◇トランジションディフェンス

トランジションの際、ボールが運ばれているのに自分のマークマンをさがしてしまい、速攻を簡単に許しボールマンに攻められてしまうケースがある。また、相手の4番 or 5番のどちらかがリバウンドを取った時、もう一人がリムランナーとして走る。その場合のディフェンスとしてガードが対応することが多いが、本来つくべき相手の4番ないし5番のマークマンが戻った時に、誰をマークすべきかを迷ってしまいやられることが多い。マークマンを変えるのか、そのままつくのか、『声』による確認が必要なのだが実践の場でまだまだできていない。

## ◇3P シュートの確率を上げたい

アジアカップでの3P シュートの確率が平均約24%であった。タイやマレーシアという日本より順位が格下のチームも入れての数字なので、もっと精度を上げなければならない。

日本女子アンダーカテゴリー代表が抱える課題は以上になります。

次は萩原氏が課題の中から特にピックアップしたものの映像を通した解説です。映像をお見せすることはできないので、私の方で内容をできるだけ分かりやすく紹介します。(映像はすべて、ワールドカップやアジアカップのゲームです。)

## 課題1：ドライブは日本の生命線

- ▶①迂回してしまう(ふくらむ)▶②フィニッシュ▶③ディフェンス(ヘルプを含め)を見ていない
- ▶④ボールを持っていない人の動き(合わせ、スペース取り)が足りない
- ▶⑤間合いのあるディフェンスに対して攻めがあまい

課題1について、萩原氏の解説です。

①の「迂回してしまう」とは、ドライブインの時にディフェンスを避けるようにまわってドリブルしてしまうことです。ディフェンスとの接触を回避したい気持ちから起こってしまうのです。

②の「フィニッシュ」とは、シュートを決める最終段階のことです。そのフィニッシュ(シュートリリース)のタイミングが早くなってしまうのです。ディフェンスにタイトにつかれると、ドライブの際に踏み切るのが早くなってしまい、ディフェンスに合わされシュートチェックされることなどです。

③の「ディフェンスを見ていない」は、ドライブでペイントに進入する時に、自分のディフェンスやヘルプディフェンスを見ていないため、自滅してしまうことや空いている味方を見逃すということです。

④の「ボールを持っていない人の動き(合わせ、スペース)が足りない」は、例えば味方のドライブに対してコースに入ってしまう、じゃまをしてスペースを潰してしまうことです。

⑤の「間合いがあるディフェンスに対しての攻めがあまい」とは、間合いがあるディフェンスだとう攻めたらよいか分からなくなり、タフショットになってしまうのです。

次号では**課題1**について、ミニバスのうちから取り組みたいことについて私の考えを書きます。